

# 科学技術の潮流

(185)

JST研究開発戦略センター

## 共有への期待

科学研究の成果は主に論文として流通するが、その背後には実験・観察で得られた膨大なデータがある。ともすればロボのハードウェアに眠るだけのこの研究データに、いま注目が集まる。オープン（・リサーチ・）データ、すなわち検索・アクセス・相互運用・再利用が可能という要件（頭文字をとってFAIR原則）を満たす形で公開・共有された研究データは、重複的な研究の回避、人工知能を駆使した知見の発

掘、感染症への迅速な対応など、さまざまな価値につながることを期待されている。

地球科学や天文学など一部の分野では国際的なデータ共有が長年行われてきたが、過去の10年ほどは、論文誌のオープンアクセス化が進む。

米国立衛生研究所を宣言した。

ども包含する「オープンサイエンス」運動が

## 踏み込む米国

世界的に盛り上がる中、研究の公正性や再

直近では、米国政府

23年1月にデータ管理

識も相まって、各国政

府や官民の研究資金提

供機関が積極的に「データ共有を推進してき

対し、公的助成を得た

1月、OSTPはNIHを含む10の連邦政府

機関とともに23年を

# オープンデータ政策で加速か



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー 丸山隆一  
 東京工業大学総合理工学研究科修士課程修了（理論神経科学）。出版社勤務を経て20年より現職。科学技術イノベーション政策についての調査業務に従事。

## オープンデータの主な意義とボトルネック

意義	ボトルネック
<ul style="list-style-type: none"> <li>データ駆動型研究の実現</li> <li>重複的な研究の回避</li> <li>再現性の確保</li> <li>研究公正の担保など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有へのインセンティブ欠如</li> <li>データ管理の専門人材不足</li> <li>データベース維持のコスト</li> <li>倫理・法的问题</li> <li>定義・要件のあいまいさ</li> </ul>

JST研究開発戦略センター「研究データ共有（オープンデータ）の動向」（2023年2月）より作成  
<https://www.jst.go.jp/crds/report/TP20230203.html>

データ公開をルールも、どこまでのデータを公開するのか、データキュレーションの手間やコストをどうするのかなど、現場の戸惑いも聞かれる。データベースやリポジトリの整備状況も分野ごとのバラつきが大きい。オープンデータのメリットはコストなしで享受できない。各国・各分野の好事例を丹念に見いだしながら、持続可能な仕組みを模索すべき段階に入っている。（金曜日掲載）